

# キャップ春秋



正会員  
五十音順



一般社団法人  
日本キャップ協会 会員一覧



内山工業株式会社  
〒105-0012  
東京都港区芝大門2-1-16  
芝大門MFビル3階  
TEL 03-5472-7133

《東京支店



株式会社CSIジャパン  
〒105-0001  
東京都港区虎ノ門1-2-8  
虎ノ門琴平タワー5階  
TEL 03-5511-0035

《野木本部



大和製罐株式会社  
〒100-7009  
東京都千代田区丸の内  
2-7-2 JPタワー9F  
TEL 03-6212-9700

《本社



東京王冠株式会社  
〒300-1217  
茨城県牛久市さくら台  
4-12-1  
TEL 029-872-2683

《牛久工場



株式会社中川商店  
〒553-0002  
大阪市福島区鷺洲1丁目  
9番10号  
TEL 06-6451-0236

《伊丹工場



日本クロージャー株式会社  
〒141-0022  
東京都品川区東五反田2-18-1  
大崎フォレストビルディング18F  
TEL 03-4514-2150

《本社



日本山村硝子株式会社  
〒662-8580  
兵庫県尼崎市西向島町  
15番1  
TEL 06-4300-6340

《宇都宮工場



野田クラウン工業株式会社  
〒306-0626  
茨城県坂東市小山2051  
TEL 0297-38-1881

《本社



久金属工業株式会社  
〒557-0061  
大阪市西成区北津守  
3-8-31  
TEL 06-6562-0121(代)

《滋賀工場



株式会社寶冠  
〒114-0003  
東京都北区豊島1-39-8  
TEL 03-3911-3986

《益子工場



三笠産業株式会社  
〒635-0817  
奈良県北葛城郡広陵町  
寺戸27番地  
TEL 0745-56-5581

《本社



ユニバーサル製缶株式会社  
〒112-8525  
東京都文京区後楽1-4-25  
日教販ビル8F  
TEL 03-3868-7470

《富士小山工場

賛助会員  
五十音順



アロン化成株式会社  
エラストマー事業部  
〒105-0003  
東京都港区西新橋二丁目8番6号  
住友不動産ビル8階  
TEL 03-3502-1447

《本社



関西ペイント株式会社  
〒254-0016  
神奈川県平塚市東八幡  
4-17-1  
TEL 0463-27-1225

《開発センター



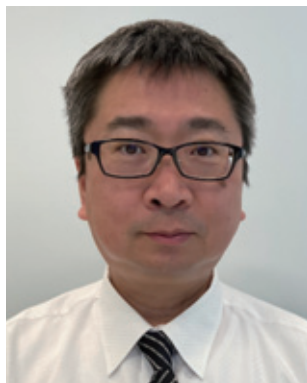
キリンホールディングス株式会社  
R&D本部 パッケージイノベーション研究所  
〒230-8628  
神奈川県横浜市鶴見区生麦1-17-1  
テクノビレッジセンター

《パッケージイノベーション研究所 TEL 045-521-4919



ヘンケルジャパン株式会社  
〒243-0807  
神奈川県厚木市金田  
100番地  
TEL 0462-25-8831

《厚木事業所



# 巻頭 コラム

大和製罐株式会社

環境室 環境課長 鈴木 久志

「環境に良い」とは実に都合のいい言葉です。何かの行動や変化に対し、環境に良くなる一面だけを見て、これは「環境に良い」とアピールする事が多くなってきたな・・・と個人的に思っています。

アピールする事を批判している訳ではありません。事実を伝えているのですから問題ないのですが環境を良くする取り組みにはゴールがなく、答えもない。今、取り組んでいる事が環境にとって良い事なのか、悪い事なのかは10年後或いは20年後に分かる事かもしれないし、わからないままかもしれません。「地球温暖化、資源循環、生態系保護、持続可能な社会」といったキーワードが様々な言い回しで目標化され公表されています。これからもこの流れは続いていくのだと思います。

## 「環境に良い」とは

しかし、重要な事を忘れていている気がします。それは「我々人間に都合の良い環境を維持していくため」に環境を良くするという前提がある事です。植物にとってはどうなのか、菌やウイルスにとってはどうなのか、人間以外の動物や昆虫にとってはどうなのかという事です。これは誰も答えがわかりません。

「サラリーマンが偉そうに何を言うのか」と怒られますのでこれ以上の持論の深掘りは止めておきます。

私がこのコラムを書いている現在（1月9日）「広島、山口、沖縄でまん延防止等重点措置が正式決定」というニュースが入ってきました。全国コロナ感染者も5000人超となり、東京も急激に感染者が増加しており、第6波の入り口に入ったのかもしれません。日本キャップ協会も技術委員会がWeb会議に切り替わって1年以上が経ちました。当然、感染防止対策で飲食店へ行くこともままならず、メンバー同士で懇親を深める場もなく時間が過ぎてしまいました。その間メンバー退任もあり寂しい限りです。

私にとって「環境に良い」とは、色々な人との繋がりが制限されることなく、自由に動ける環境であり新年会、忘年会、入学式、卒業式、修学旅行、成人式、入社式などがWeb開催ではなく、顔を合わせて行える状況になること。そして、絆のある社会が持続していく事だと思っています。

絆という言葉は古風かもしれませんが、これからも古風に生きていけたら幸せです。

# Contents

## キャップ春秋 目次

2022 Vol.24

巻頭コラム（鈴木久志）、目次、表紙題字のコメント	1
日本キャップ協会定時社員総会・定時理事会報告	2-
技術委員会開催報告	4-
日本キャップ協会寄稿	6-
会員ニュース、トピックス	12-
技術委員就任のご挨拶	14
編集後記	15
JCA会員名簿	16

## 表紙題字

白澤 竹峰氏

(有)ATAGO IP勤務、竹峰書道教室主宰や産経国際書会無鑑査等幅広く活躍中

# 2021年度定時社員総会及び定時理事会開催

2021年6月に定時社員総会及び定時理事会が開催され、2020年度の事業報告・収支決算、2021年度の事業計画・収支予算案が決議され承認可決されました。

## 1. 2021年度 事業計画

### (1) 事業計画概要

2021年度も未だ新型コロナウイルスは終息には至っておらず、新たな変異ウイルスの出現により依然として危機は続いているものの、ワクチンの投与も開始され、ウィズ・コロナの生活も新たな段階に入ったと言えます。5月末のOECDの予測では、2021年世界の実質経済成長率は5.8%に上方修正されました。

しかしながら、日本の成長率は2.6%に引き下げられました。背景には、ワクチン接種の遅れや緊急事態宣言等による消費回復の遅れなどが挙げられており、当面の経済活動は感染拡大に伴うブレーキと感染一服によるアクセルという交互の状態が続き、今後も経済格差などの二極化が進行していくものと見込まれます。

また、今夏に延期となった東京オリンピック・パラリンピックは開催に向け準備が進んでいますが、多くの課題が山積しており、日本経済への影響は計り知れません。

こうした中、「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が閣議決定され、通常国会で新法が成立し、2022年4月から施行される見込みとなりました。

前年度より、当協会は資源循環戦略に関する幅広い情報を収集し、技術委員会にて関連するテーマを取り上げてきました。今年度はこれを更に深化させ、容器包装の環境対応について深掘りしていきます。

また、このような環境対応は、一つの業界単独での推進は困難である事から、関係諸団体との意見交換の場を設け、将来的には連携しながら活動が可能になるよう検討を進めます。

この他、例年と同様に、会報誌キャップ春秋の発行、ホームページを活用した情報の提供や各種お問い合わせへの対応、及び、大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口などの活動を引き続き行っていきます。

## 2. 個別事業活動について

### 2-1. 技術委員会の活動について

今期も定例技術委員会は従来通り2か月に一度、奇数月に開催する予定です。

事業計画概要でも触れていますが、プラスチックの資源循環に向けて新法が成立し、来年度からの施行が予定されています。当協会としても新法に的確に対応するため、今年度新たに技術委員会に環境対応ワーキンググループ（以下、WG）を設け、適宜活動していきます。

環境WGは、既にLCAデータ作成に向けて活動中である「リシール缶用キャップWG」、及び、清涼飲料PET容器の資源循環（水平リサイクル等）に対応すべく「清涼飲料PET用キャップWG」を設置し、最新の情報収集と適切な対策を検討していきます。

また、キャップ回収業者の見学など、環境関連会社や団体との接点を増やし、今後起こりうる課題と対応を検討します。

## 2-2. 見学会の開催

本年度の見学会は、昨年見送りとなりましたニッカウキスキー仙台工場宮城峡蒸溜所と一ノ蔵への見学を予定しています。→ コロナウイルスの感染拡大により中止となりました。

## 2-3. 会報誌キャップ春秋の発行

2021年度における技術委員会での検討内容、その他当協会の活動内容などを掲載します。

## 2-4. ホームページを活用して情報発信

役員や会員情報などの変更事項、及び2021年度事業計画、キャップ春秋の掲載などを行います。

## 2-5. 大崎フォレストビルディングのプラスチックキャップ回収窓口

本年度も大崎フォレストビルディングでの回収窓口を継続します。

## 3. 2021年度 収支予算

前期繰越金	7,250,995円
当期収入合計	5,037,480円
当期支出合計	5,466,106円
次期繰越金	6,822,369円

## 4. 2021年度役員

会 長	中嶋 寿 日本クロージャー株式会社 代表取締役社長
副会長	保木本 巨 株式会社CSIジャパン 代表取締役社長
理 事	野部 浩 株式会社寶 冠 代表取締役社長
理 事	久 義裕 久金属工業株式会社 代表取締役社長
理 事	西川 政和 東京王冠株式会社 代表取締役社長
理 事	山村 昇 日本山村硝子株式会社 執行役員プラスチックカンパニー社長
理 事	林田 大地 三笠産業株式会社 代表取締役社長
監 事	谷口 真一 日本クロージャー株式会社 取締役常務執行役員

# 技術委員会開催報告

## 2021年度技術委員会の主要テーマ

- ①環境対応ワーキンググループの活動
- ②プラスチック資源循環戦略について
- ③容器包装・環境関連に関する情報共有
- ④その他（随時の課題・情報交換等）

### ●第1回技術委員会：5月

- ・環境対応ワーキンググループ（以下WG）について
  - ①リシール缶用キャップWG ～ LCAデータ
  - ②清涼飲料PET用キャップWG
- ・プラスチック資源循環戦略について
  - ①プラスチック新法概要について
  - ②環境配慮設計指針
  - ③環境関連情報

### ●第2回技術委員会：7月

- ・環境対応WG 進捗状況説明
  - ①リシール缶用キャップ LCAデータ集計とスケジュール
  - ②清涼飲料PET用キャップリサイクル施設見学会と異物低減プロジェクトについて
- ・プラスチック資源循環戦略について
  - ①プラスチック新法対応 ～ 再商品化と設計指針に関する研究会について
  - ②プラスチック資源循環関連情報 ～ 法律案の概要など

### ●第3回技術委員会：9月

- ・環境対応WG 進捗状況報告
  - ①リシール缶用キャップLCAデータについて
  - ②エポキシ塗料供給懸念に関する情報共有
  - ③異物低減プロジェクト実証試験情報
- ・プラスチック資源循環合同会議について
  - ①プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律の政省令・告知について
- ・プラスチック資源循環促進法に関する情報共有

### ●第4回技術委員会：11月

- ・環境対応WG進捗状況報告
- ・プラスチック資源循環促進法の動向と環境配慮設計ガイドライン説明会について
- ・PL制度見直しに連動した蒸発残留物試験の見直しについて  
～ 食品接触材料安全センター  
情報調査・広報室長 石動氏

### ●第5回技術委員会：1月

- ・環境対応WG進捗状況報告
  - ①リシール缶用キャップLCAデータ集計結果について  
～ WIC社 社長 林氏
  - ②清涼飲料PET用キャップ 異物低減プロジェクトについて
- ・プラスチック資源循環戦略について

### ●第6回技術委員会：3月開催予定



## 技術委員会委員（五十音順）

内山工業株式会社			技術委員長		
（執）コルク&FPM事業部長	澤	達也	株式会社CSIジャパン		毛利 彰宏
			（常執）開発本部長		
大和製罐株式会社			東京王冠株式会社		須郷 好寿
品質保証部 環境課長	鈴木	久志	取締役牛久工場長		
株式会社中川商店			日本クロージャー株式会社		橋本 勝巳
代表取締役会長	中川	英雄	製品開発部 課長		
日本山村硝子株式会社			野田クラウン工業株式会社		杉崎 真弥
プラスチックカンパニー			代表取締役社長		
生産技術部 課長	川村	伸生			
久金属工業株式会社			株式会社 寶 冠		野部 浩一
シニアアドバイザー	川島	秀弘	営業部		
三笠産業株式会社			ユニバーサル製缶株式会社		小崎 直樹
顧問	森	淳生	経営戦略部 部長		
			日本キャップ協会事務局		中村 幸弓
			事務局長		

# 自動販売機リサイクルボックス 異物低減プロジェクト2021へ参加して (Recycle for Foreign materials Reduction 2021)

日本クロージャー株式会社  
営業本部 営業推進部：北出 裕介  
製品開発部：橋本 勝己  
(日本キャップ協会技術委員)



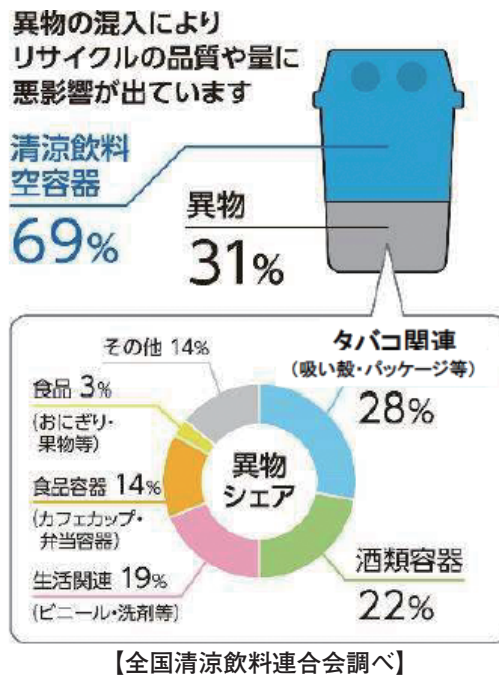
営業本部 営業推進部：北出 裕介



製品開発部：橋本 勝己

清涼飲料業界は、プラスチック資源循環を促進するためペットボトルの水平リサイクルに取り組んでいます。全国清涼飲料連合会は、2021年4月に「2030年ボトルtoボトル比率50%宣言」を発表されました。2020年時点でボトルtoボトル比率は15.7%であり、目標達成には使用済みペットボトルの確実な回収と回収品質の向上が課題とされています。

特に自動販売機横のリサイクルボックスに投入されるペットボトルは品質が悪いとされており、品質低下の要因としては、タバコの吸い殻やプラスチックカップ、食品容器といった清涼飲料空容器以外の異物が多く投入されていることがあげられます。異物が混入することによりペットボトルの衛生性が悪化するだけでなく、本来リサイクルボックスに入るべきペットボトルを入れることができずに散乱の原因となり、周辺環境の悪化にもつながります。





このような現状に対し、全国清涼飲料連合会では質の高いペットボトルの回収と清涼飲料空容器の散乱防止を目的とし、2020年度から自動販売機横リサイクルボックスの異物低減に関する取り組みを行っています。2020年度は東京・渋谷駅を中心としたエリアにて【写真1】のような脱ゴミ箱化を目指す新形状のリサイクルボックスを用いた実証実験を行い、異物低減効果を確認しました（異物混入率は43%から29%に低減）。

### 新形状リサイクルボックス デザイン・設計の意図

- 下向きで近づくと見えない投入口により、「ゴミ箱」ではなく「リサイクルボックス」であるという意識を喚起し、無意識の異物投入を抑制
- 投入口を下向きにすることにより、飲み残しの入った飲料空容器の投入を抑制
- 投入口径を清涼飲料水容器の直径に合わせることで、大きな異物（コーヒー・タピオカカップ、食品容器等）の投入を抑制
- 頭部と本体を一体化し、頭部を外しての大きな異物の投入を抑制
- 左右非対称の特異な形状とすることにより、既存のリサイクルボックスとの差別化による利用者の意識転換を図る



【写真1】

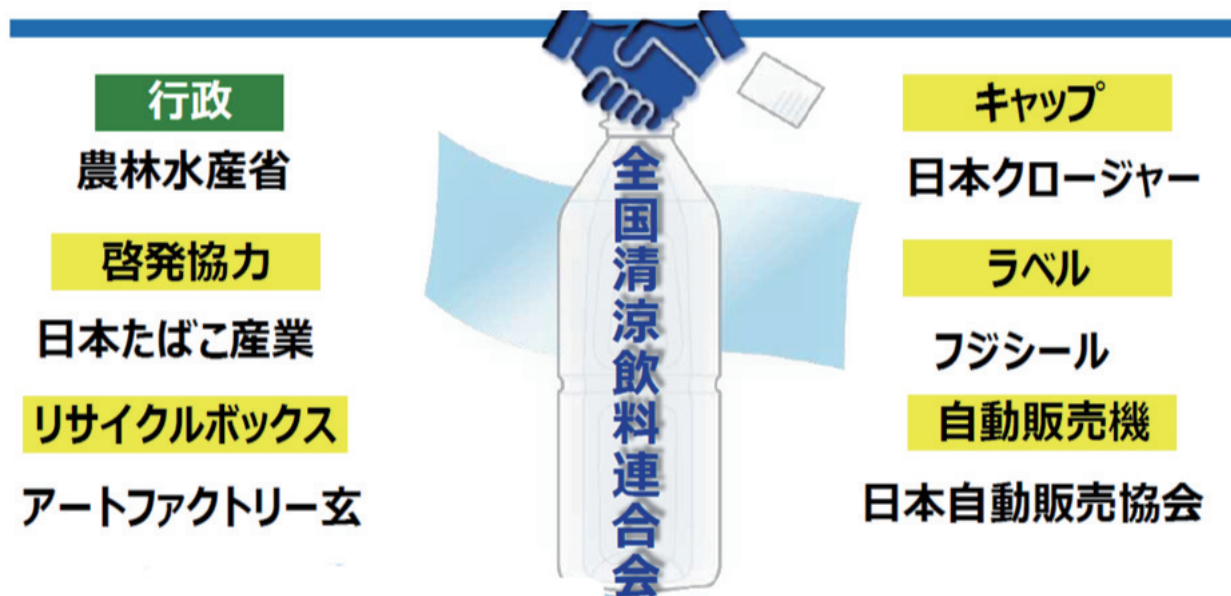
そして2021年度は【写真2】のように、樹脂素材による汎用性を考慮したタイプとし、2022年秋の業界統一仕様としての上市を想定したデザインで実証実験を開始することとなりました。

### 2021年度 新機能リサイクルボックス



【写真2】

今回はペットボトルのみならず新たにキャップとラベルの分別回収も進めることで、清涼飲料業界全体としてカーボンニュートラルの実現に向けた異業種連携の取り組みであることが大きな特徴となっています。日本たばこ産業(株)、ラベルメーカーの(株)フジシールインターナショナル、リサイクルボックスメーカーのアートファクトリー(株)、そしてキャップメーカーである我々、日本クロージャー(株)が参画し、清涼飲料業界の枠をこえた取り組みとして実施されました。



## ■実証実験概要

### <検証場所>

農林水産省食品産業プラスチック資源循環対策事業における「地方中核都市」「地方都市」として静岡県浜松市と愛知県岡崎市、三重県「ペットボトル協働回収モデル事業」として同県津市の合計3カ所で実施

### <実施期間>

浜松市 8月23日～9月19日

岡崎市 9月13日～10月10日

津市 11月1日～12月20日

また、新機能リサイクルボックスに加えて、3分別がさらに実施されるように【写真3】のようなキャップ/ラベル専用のリサイクルボックスも設置しました。



### <キャップ・ラベル用>

材質：本体：ポリプロピレン 投入口：ABS

容量：約95リットル

サイズ：W442×D480×H778mm

【写真3】

<検証方法>

実施期間の前半は従来リサイクルボックスによる現状把握、後半は、ペットボトルのリサイクル啓発を一部で実施しつつ、新機能リサイクルボックス設置による効果を確認しました。新機能リサイクルボックスは (A) 屋外に新機能リサイクルボックスを単体設置、(B) 屋外に新機能リサイクルボックスとキャップ／ラベル専用ボックスを併設、(C) 屋内に新機能リサイクルボックスとキャップ／ラベル専用ボックスを併設 の3パターンで検証しました。

場所	実証実験期間	
	従来RB	新RB
静岡県 浜松市	8/23～9/5	9/6～9/19
愛知県 岡崎市	9/13～9/26	9/27～10/10
三重県 津市	11/1～11/21	11/22～12/20

<組成分析方法>

回収品の分析は以下のように行いました。

- ①リサイクルボックスの投入物を回収し分析場に集める。
- ②各ロケーション、ボックス毎の投入物を確認する。
- ③従来リサイクルボックスと新機能リサイクルボックスの投入結果を比較して利用者の行動変化を検証する。

※投入物は下表のように細かく集計しました。

清涼飲料空容器		異物
ペットボトル (ラベルキャップ 有)	飲み残し 有 ペットボトル	<b>紙コップ、プラスチックコップ、 紙製飲料容器、ストロー、 食品容器、弁当容器、缶詰、 レジ袋、容器包装、紙袋、紙類、 酒類ペットボトル 酒類缶 酒類ビン 木類、洗剤等プラスチックボトル、 歯ブラシ、おもちゃ、食品、 たばこ吸い殻入りペットボトル、 たばこ吸い殻、たばこパッケージ、 ライター等</b>
ペットボトル (ラベルキャップ 無)	飲み残し 有 缶	
ペットボトル (ラベル 有、キャップ 無)	飲み残し 有 ビン	
ペットボトル (ラベル 無、キャップ 有)		
缶	ペットボトルキャップ	
ビン	ラベル	
大型ペットボトル		

分析現場の様子【写真4】



<分別してカウント>



<タバコの吸い殻がボトルやプラカップに入っている>



■実証実験現場視察所感

実証実験の結果は現在分析中のため、今回は現場を視察した際に感じたことをキャップ回収の視点で報告いたします。(2022年1月末時点)

①キャップ／ラベル専用リサイクルボックスを併設することで、キャップの分別率は向上する

ペットボトルの回収品質向上のためには、キャップ・ラベル・ボトルが3分別され「ペットボトルのみ」の状態投入されることが好ましいとされていますが、既存リサイクルボックスと新機能リサイクルボックス単体設置でのキャップの分別率比較では大きな違いは見受けられませんでした。

しかし、キャップ／ラベル専用のリサイクルボックスを併設することで、キャップの分別が促進され「ペットボトルのみ」の回収率は明らかに向上しているように見えました。

新機能リサイクルボックスに3分別の啓発表示はあるものの、新機能リサイクルボックス単体設置では外したキャップをどうすれば良いか迷う消費者が一定数おり、専用ボックスを置くことで3分別が誘導され、キャップ回収率が向上したのではないかと推測されます。

②ロケーション毎で回収キャップの品質が異なる

屋外より屋内の方がしっかりと3分別され、異物の混入も少ないように感じました。屋外でもオフィス外のたばこ休憩所のように特定の利用者しかいないロケーションでは屋内同様にしっかりと3分別され、リサイクルボックスが綺麗に使用されていました。一方、公園や駐車場など不特定多数の人が使用するロケーションでは、3分別の状況が悪く、異物が多数混入しているように見受けられました。

ロケーション別に回収したキャップの汚染度を調査していますが、屋外で回収されたキャップは内容液による汚れや臭気がひどく、カビの発生も見られました【写真5】。屋外での回収品質レベルを向上させることが今後の課題となりそうです。

		キャップ専用ボックス	
		有り	無し
回収場所	屋内	<p>1 屋内専用BOX有</p>	<p>2 屋内専用BOX無</p> <p>カビ?</p>
	屋外	<p>3 屋外専用BOX有</p> <p>袋内面に黒い液体付着</p> <p>キャップ外側の汚れ</p>	<p>4 屋外専用BOX無</p> <p>カビ?</p> <p>袋内面に大量の黒い液体付着</p>

【写真5】

### ③キャップ／ラベル専用ボックスでの回収効率と衛生性に課題

キャップ／ラベル専用ボックスは、浜松・岡崎は2週間、津では1カ月間設置されました。【写真6】は津市で設置後3週間経過したキャップ／ラベル専用ボックスの中身です。ラベルは一定量入っておりますが、キャップは小さいためボックスをいっぱいにするまでにかなりの時間を要します。

一方で回収効率を考慮しキャップが多数集まるまで長期間放置した場合、周りの衛生環境の悪化も懸念されます。

キャップ専用ボックスの単体設置は、キャップの分別促進が期待されますが、回収効率と衛生性に課題を残さそうです。

【写真6】キャップ／ラベル専用ボックス投入状況



## ■終わりに

今回初めて、清涼飲料ペットボトルに関わる会社が連携した実証実験に参加しました。

自動販売機横リサイクルボックスの現状把握、そして中間処理業者の作業内容などを確認し、今後リサイクルを推進する上での課題が抽出され大きな収穫があったと感じております。

また、今回はキャップメーカーの代表として弊社単独で参加しましたが、リサイクル問題はキャップ業界全体の課題と捉えております。今後は業界全体としてリサイクルをどのように考えていくかといった議論を会社の垣根を越えて進めていくことが重要だと感じております。

以上

## トピックス

## ●エコプロ2021

2020年は新型コロナウイルスの感染拡大により通常開催は中止されましたが、サステナブル経営推進機構と日本経済新聞社が主催するエコプロ2021は12月8日から10日まで東京ビッグサイトで開催されました。

(オンライン展示会としてエコプロOnline2021は11月25日から12月17日まで開催)

今回は7つのテーマゾーンや企画コーナーもあり、地方創生×SDGsや海洋プラスチックごみ対策パビリオン等が併設されていました。

特設ステージでは専門家や企業の実務担当者などを講師に招き、SDGsを軸とした社会課題の解決、持続可能な街づくりなどに関して情報発信が行われ、その模様はオンラインでも配信されました。

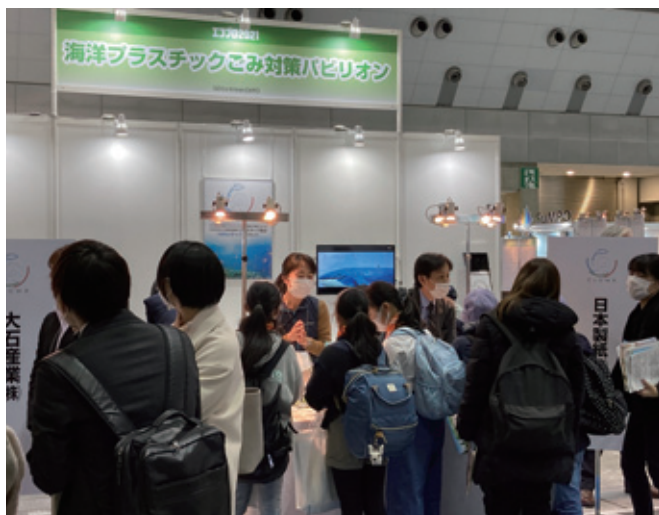
エコプロ展は開催当初より小中学生の環境学習に力を入れています。

出展者側は小中学生を対象にしたクイズ形式やツアー形式の学習ツールを用意し、企業のPRや環境学習に力を入れています。

主催者側もエコプロ学習教材として、環境学習をサポートするため「エコスタディノート」を配布し、展示会を見学しながら学んだことを書き込めるようにしています。

昨年の12月初旬はオミクロン株の流行前でしたので小中学生が観光バス等で多数来場し、出展者に取材する例年のような光景が見られました。

今回は2022年12月7日から9日の開催予定です。



## ●第6回ドリンク ジャパン（飲料・液状食品開発・製造展）

2021年10月13日～15日まで幕張メッセで第6回ドリンク ジャパンが開催されました。

ドリンク ジャパンは、飲料や醸造、液状食品の開発・製造に特化した商談展です。主催者の発表によると、同時開催展との合計で、16,168人の来場者となった模様です。

また、セミナーは2展3日間合計で約5,000人の受講者を集めました。

第7回ドリンク ジャパンは、2022年12月7日～9日までの3日間、第6回に引き続き幕張メッセで開催する予定です。

主催者によれば次回は展示規模を大きくし、サステナブルパッケージや機能性素材・天然原料などのゾーンと酒類エリアを新設するそうです。



## ●JAPAN PACK 2022（日本包装産業展）

2022年2月15日～18日までの4日間、日本包装機械工業会主催JAPAN PACK 2022が東京ビッグサイトで開催されました。

今回のテーマは「ともにつくる 未来の包程式」です。

JAPAN PACKは主に包装機械を中心に製造ライン全体における様々な分野の製品や技術等を展示していますが、今回注目した企画展示は印刷、化学メーカー等6社の展示もあった「包装ライフサイクル展示コーナー」です。パッケージのライフサイクルの現状と課題を可視化し、「包装にまつわるステークホルダーが一丸となり、ライフサイクル全体で“=0”を目指すことが重要」で、「皆さんのそれぞれの努力が結集し、連携していく事が必要」と記載されたパンフレットに感銘を受けました。



## 技術委員変更のお知らせ

- ・東京王冠株式会社 JCA技術委員  
牛久工場 取締役工場長 須郷 好寿 様

## 技術委員就任のご挨拶

東京王冠株式会社  
牛久工場 取締役工場長 須郷 好寿



この度、前任の土屋より引き継ぎ技術委員に就任致しました、東京王冠(株)の須郷と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は1969年（昭和44年）生まれで、1996年に入社し、金属印刷、塗装部門の作業を経験したのち、キャップ成形部門を中心に製造業務に携わって参りました。

ここ数年は製造現場の技術管理を行うと共に、品質管理や安全衛生に関する活動、工場内環境の整備や設備更新等のプロジェクトを推進する事が主な業務となっております。

弊社の取り扱うキャップは全て金属製のキャップでありまして、対する容器もガラス瓶や金属缶となりますので、樹脂キャップやペットボトルに関する知識を全く持ち得ない中で初めて参加させて戴いた技術委員会は大変興味深いものでした。

SDGSの考えを取り入れた資源循環型リサイクルへの積極的な取り組みが様々な企業や組織団体等で行われており、新しい技術やアイデアで実際に海洋汚染対策やCO<sub>2</sub>の削減に効果を上げている事例を目にし、これからの企業経営はステークホルダーへの社会的責任をより強く意識していかなければならないという事を改めて痛感しました。

昨年の新型コロナウイルスの影響についてですが、弊社のキャップ製品は業務用酒類向けが多く、これらの分野は当然の事ながら打撃を受けました。特に王冠に関しましては一時的に大幅な売上の減少が見られましたが、9月末に緊急事態宣言が解除された後は徐々に回復してきておりますので、今後の展開は予測できませんがニューノーマルな時代の中でも安定した消費活動が維持される事を願うばかりです。

最後に、この度伝統ある技術委員会の委員に就任させて頂きましたが、私自身まだまだ力不足でございます。日本キャップ協会の皆様にご迷惑を掛けぬよう、協会の発展に少しでも貢献できるよう努めさせていただく所存であります。諸先輩の方々のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



## 第24号 編集後記

昨年12月、国内の新型コロナウイルスの感染者が急激に減少し、沈静化してきたのかなと期待しましたが、年明けからオミクロン株が全国的に拡大しており未だ油断できない状況が続いています。今しばらくは感染防止対策を怠らず生活していくしかなさそうです。

さて今号では昨年に引き続き見学会などの報告はできませんでしたが、環境関連の話題を中心に編集しました。全国清涼飲料連合会の異業種連携による新たな取り組みである「自動販売機リサイクルボックス異物低減プロジェクト2021」の実証実験に参加した日本クロージャー(株)の中間報告を掲載しました。私も昨年9月岡崎市の組成分析現場やリサイクルボックス設置場所を見学し、ロケーションによる回収キャップの質(衛生性)の違いを目の当たりにしました。

また、エコプロはもちろんのこと、JAPAN PACKやドリンク ジャパンといった展示会においても環境に関連した展示コーナーが見受けられ循環型社会の実現に向けての意識の高まりを感じました。

末尾になりましたが、今回ご協力頂きました皆様には心より感謝申し上げます。(事務局 中村)

### 日本キャップ協会事務局ご案内



プリンストン赤坂

所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂6丁目4番18号  
プリンストン赤坂1002号室  
TEL 03-6426-5675 FAX 03-6426-5635  
アクセス 東京メトロ千代田線「赤坂」駅6番出口より徒歩3分

### 表紙写真

#### 東京メトロ千代田線 赤坂駅周辺

当協会の事務所が移転した東京メトロ赤坂駅周辺の開発計画が国家戦略都市計画建築物等整備事業として認定を受け、来年度からスタートする予定です。このプロジェクトは、東京メトロが進める「えき・まち連携プロジェクト」の対象でもあり、駅とまちを一体的につなぎ、開放性と賑わいを備えた空間の整備を目指し、高層タワーや劇場、ホール等を配置する計画との事です。

近年は六本木や虎ノ門エリアの再開発が活発で出遅れ感のあった赤坂でしたが、2028年の完成に向けてどのような街に変貌するのか期待が高まります。

撮影：中村 幸弓





# 一般社団法人日本キャップ協会役員・担当者名簿 (2022年1月版) 五十音順

No.	正/賛助	社名/事業部	協会役員/協会担当	協会担当住所	協会担当TEL
1	(正)	内山工業株式会社	☆◇ 澤 達也 (執行役員コルク&FPM事業部長)	〒105-0012 東京都港区芝大門2丁目1-16 芝大門MFビル3F	03-5472-7133
2	(正)	株式会社CSI ジャパン	副会長 保木本 亘 (代表取締役社長)	〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-8 虎ノ門琴平タワー5階	03-5511-0035
			☆ 大重 輝武 (常務執行役員)	〒329-0114 栃木県下都賀郡野木町野木148	0280-56-2345
			◇ 毛利 彰宏 (常務執行役員・開発本部長)		
3	(正)	大和製罐株式会社	☆ 仲山 道啓 (営業統括企画調査課長) ◇ 鈴木 久志 (品質保証部環境課長)	〒100-7009 東京都千代田区丸の内2-7-2JPタワー9F	03-6212-9700
4	(正)	東京王冠株式会社	理事 西川 政和 (代表取締役社長)	〒300-1217 茨城県牛久市さくら台4丁目12-1	029-872-2683
			☆◇ 須郷 好寿 (取締役工場長)		
5	(正)	株式会社中川商店	☆◇ 中川 英雄 (代表取締役会長)	〒664-0842 兵庫県伊丹市森本1-151	072-764-7000
6	(正)	日本クロージャー株式会社	会長 中嶋 寿 (代表取締役社長)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング18F	03-4514-2150
			監事 谷口 真一 (取締役常務執行役員)		
			☆ 新納 義継 (総務部部長)		
			◇ 橋本 勝巳 (製品開発部課長)		
7	(正)	日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニー	理事 山村 昇 (執行役員・プラスチックカンパニー社長)	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6丁目14-1 新宿グリーンタワービル	03-3349-7225
			☆ 赤嶺 有京 (営業部東京営業課課長)		03-3349-7257
			◇ 川村 伸生 (生産技術部課長)		〒660-8580 兵庫県尼崎市西向島町15-1
8	(正)	野田クラウン工業株式会社	☆◇ 杉崎 真弥 (代表取締役社長)	〒306-0626 茨城県坂東市小山2051	0297-38-1881
9	(正)	久金属工業株式会社	理事 久 義裕 (代表取締役社長)	〒557-0061 大阪市西成区北津守3丁目8-31	06-6562-0121
			☆◇ 川島 秀弘 (シニアアドバイザー)	〒528-0064 滋賀県甲賀市水口町伴中1220番地	0748-62-3315
10	(正)	株式会社 寶冠	理事 野部 浩 (代表取締役社長)	〒114-0003 東京都北区豊島1丁目39-8	03-3911-3986
			☆◇ 野部 浩一 (営業部)		
11	(正)	三笠産業株式会社	理事 林田 大地 (代表取締役社長) ☆◇ 森 淳生 (製品開発部顧問)	〒635-0817 奈良県北葛城郡広陵町寺戸27番地	0745-56-5581
12	(正)	ユニバーサル製缶株式会社	☆◇ 小崎 直樹 (経営戦略部 担当部長)	〒112-8525 東京都文京区後楽1-4-25 日教販ビル8F	03-3868-7471
13	(賛)	アロン化成株式会社 エラストマー事業部	☆ 有明 敏昌 (企画グループ グループリーダー)	〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目8番6号 住友不動産ビル8階	03-3502-1447
			☆ 里坊 拓美 (第1営業部 CAN グループ 所長)	〒144-0045 東京都大田区南六郷3丁目12-1	03-6758-0880
15	(賛)	キリンホールディングス株式会社 R&D本部 パッケージイノベーション 研究所	☆ 片倉 国晴 (主任研究員)	〒230-8628 神奈川県横浜市鶴見区生麦1丁目17-1 テクノレレッジセンター3F	045-521-4919
16	(賛)	株式会社神戸製鋼所	☆ 奥田 幸一 (鉄鋼アルミ事業部門 アルミ板ユニット 容器材営業部 企画室 室長)	〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9-12	03-5739-5067
17	(賛)	堺アルミ株式会社	☆ 田中 茂樹 (営業部 板製品グループ グループリーダー)	〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟町8-6	03-5843-6055
18	(賛)	JFE スチール株式会社	☆ 宮崎 健太 (缶用鋼板営業部 缶用鋼板室 課長)	〒100-0011 東京都千代田区内幸町2丁目2-3 日比谷国際ビル	03-3597-3974
19	(賛)	一般財団法人食品環境検査協会	☆ 川口 徹 (営業開発部)	〒136-0082 東京都江東区新木場2丁目10-3	03-3522-2338
20	(賛)	大日精化工業株式会社	☆ 関根 孝利 (合樹・着材第1事業部企画室 室長)	〒103-8383 東京都中央区日本橋馬喰町1丁目7-6	03-3662-7188
21	(賛)	DIC グラフィックス株式会社	☆ 鈴木 正則 (東京リキッドカラー第四営業グループ 営業四課課長)	〒103-8233 東京都中央区日本橋3丁目7番20号 ディーアイシービル	03-6733-5064
22	(賛)	株式会社トーモク 岩槻工場営業部	☆ 藤盛 崇之 (営業部第四課)	〒339-0001 埼玉県さいたま市岩槻区鹿室839-1	048-794-3111
23	(賛)	東洋鋼板株式会社	☆ 塚本 尚文 (缶材営業部缶材グループリーダー)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング19F	03-4531-6850
24	(賛)	トーヨーケム株式会社	☆ 吉田 裕志 (包装・工業材営業本部 営業1部 営業2課 課長)	〒104-8379 東京都中央区京橋2丁目2-1 京橋エドグラン	03-3272-0856
25	(賛)	日本トーカンパッケージ株式会社	☆ 木岡 郁治 (執行役員 広域営業部門統括)	〒141-0022 東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング16F	03-4514-2139
26	(賛)	日本ポリエチレン株式会社	☆ 東 豊敦 (産業資材営業本部 射出押出グループ グループマネージャー)	〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル	03-6748-7198
27	(賛)	日本ポリプロ株式会社	☆ 加藤 岳 (営業本部 生活産業材料部 食品・医療グループ)	〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル	03-6748-7190
28	(賛)	ヘンケルジャパン株式会社 Adhesive Technologies	☆ 石井 進 (営業部長)	〒243-0807 神奈川県厚木市金田100番地	046-225-8831
29	(賛)	三菱アルミニウム株式会社	☆ 鈴木 隆行 (圧延事業本部 営業部 副部長)	〒105-8546 東京都港区芝2-3-3 芝二丁目大門ビルディング	03-3769-0165
30	(賛)	株式会社UACJ	☆ 清水 真知子 (板事業本部 缶材営業部長)	〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目7-2 東京サンケイビル	03-6202-3328

※☆印は協会担当者 ◇印は協会技術委員

賛助会員  
五十音順



一般社団法人  
日本キャップ協会 会員一覧



株式会社神戸製鋼所  
鉄鋼アルミ事業部門  
〒141-8688  
東京都品川区北品川  
5-9-12  
《真岡製造所 TEL 03-5739-6441



堺アルミ株式会社  
東京オフィス  
〒103-0024  
東京都中央区日本橋  
小舟町8-6  
TEL 03-5843-6055



一般財団法人食品環境検査協会  
〒136-0082  
東京都江東区新木場  
2-10-3  
TEL 03-3522-2338  
《東京事業所



JFEスチール株式会社  
〒100-0011  
東京都千代田区内幸町  
2-2-3 日比谷国際ビル  
TEL 03-3597-3974  
《スチール研究所



大日精化工業株式会社  
〒103-8383  
東京都中央区日本橋  
馬喰町1-7-6  
TEL 03-3662-7188  
《東海製造事業所



DICグラフィックス株式会社  
東京リキッドカラー第四営業部  
〒103-8233  
東京都中央区日本橋  
3-7-20 ディーアイシービル  
TEL 03-6733-5064



東洋鋼板株式会社  
〒141-0022  
東京都品川区五反田2-18-1  
大崎フォレストビルディング19F  
TEL 03-4531-6850  
《下松工場



株式会社トーモク  
関東営業部  
〒339-0001  
埼玉県さいたま市岩槻区  
鹿室839-1  
TEL 048-794-3111  
《岩槻工場



トーヨーケム株式会社  
〒104-8379  
東京都中央区京橋2-2-1  
京橋エドグラン  
TEL 03-3272-0856  
《川越事業所



日本トールカンパッケージ株式会社  
〒141-0022  
東京都品川区東五反田2-18-1  
大崎フォレストビルディング16F  
TEL 03-4514-2130  
《本社



日本ポリエチレン株式会社  
〒100-8251  
東京都千代田区丸の内  
1-1-1 パレスビル  
TEL 03-6748-7198  
《四日市工場



日本ポリプロ株式会社  
〒100-8251  
東京都千代田区丸の内  
1-1-1 パレスビル  
TEL 03-6748-7190  
《本社



三菱アルミニウム株式会社  
〒105-8546  
東京都港区芝2-3-3  
芝二丁目大門ビルディング  
TEL 03-3769-0111  
《富士製作所



株式会社UACJ  
〒100-0004  
東京都千代田区大手町  
1-7-2 東京サンケイビル  
TEL 03-6202-3328  
《本社





### 赤坂氷川神社

撮影：中村 幸弓

赤坂と言えば日枝神社が有名ですが、赤坂6丁目には氷川神社があります。  
氷川神社の創建は951年とされ、1730年8代将軍吉宗の命により現在地に遷されました。  
現在の社殿はこの時に造営されたものであり、東京都の有形文化財に指定されています。  
また、江戸七氷川に数えられ、その筆頭とされます。  
境内には推定樹齢450年、港区の天然記念物に指定されている大銀杏があります。  
11月下旬の黄葉が楽しみです。

## キャップ春秋 2022年〈第24号〉

発行 一般社団法人 日本キャップ協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6丁目4番18号 プリンストン赤坂1002号室

TEL 03-6426-5675 FAX 03-6426-5635

発行責任者 中村 幸弓

印刷 電算紙株式会社